

2026年度（令和8年度）事業計画（案）

住宅型有料老人ホームゆふ

1 施設を取り巻く現状と課題

（1）事業の種類及び利用定員

住宅型有料老人ホーム

定員：22名

（2）県市町村等からの受託、補助事業等

なし

（3）地域における公益的な取組

地域の清掃活動として、1か月に1回「クリーングリーン作戦」実施。

（4）運営方針

法人理念である「共歩・共笑・共育」に基づき、入居者様がこれまで歩んでこられた人生を尊重し、日々の生活に寄り添うことで、我が家にいるような安らぎと信頼関係を築いてまいります。

また、本人だけではなく、ご家族が抱える不安や困りごとにも親身に耳を傾け、共に解決の道を歩むパートナーでありたいと考えております。

さらに、その方らしい生活を支えるため、ケアマネジャーをはじめとする専門機関と連携を図り、お身体の状態やご希望に合わせた最適な環境を整えていきます。外出の機会が少なくなったとしても、施設内での他者との温かい交流を大切にすることで、社会との繋がりを保ち孤独を感じることもない活気ある日々が送れるよう努めてまいります。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	職場内の明るい雰囲気が出るよう、SNS を用いて広報する。
現状と課題	経営企画室と連携を取り、協力してもらうことで SNS での投稿回数を増やすことができています。
取組の方向性	今後もイメージアップに繋がるような動画が配信できるよう小さな行事なども経営企画室と共有し連携していく。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	担当制とチーム制の組み合わせ
現状と課題	行事等に関してはチーム内での話し合いがうまくできていたが、利用者一人ひとりに対する支援が属人的になりがち。1 チームに 10 名程度の利用者を分担していたが、誰を見ていけばいいのか分からず、個人任せになりやすい状況だった。
取組の方向性	担当制とチーム制を組み合わせることで、利用者理解を深めると同時に、職員同士が支え合える体制を構築する。リーダー職員が中心となり、日常的に相談しやすい関係性と、報告・連絡・相談が自然に行えるチームワークづくりを進める。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	「いいところ探し」メッセージのプレゼント
現状と課題	多忙な業務の中ではお互いを認め合うような情緒的な交流が不足しがちである。人間関係の悩みは離職の直接的な要因となるため、業務連絡以外で信頼関係を深めていく必要がある。
取組の方向性	誕生日月の職員へ日ごろ言えていない感謝の気持ちや「いいところ探し」を行い、メッセージを添え本人へ贈呈する。職員の自己肯定感を高めるとともに、職種や世代、雇用形態を超えたチームの一体感を作り、職場への愛着を深める。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	健康器具使用の開放
現状と課題	介護業務は体力的な負担が大きく職員の多くが腰痛や肩こりなどの慢性的な身体の不調を抱えている。
取組の方向性	施設所有の健康器具（マッサージチェアー、バランスボール、C型器具）を職員に開放する。休憩時間や勤務前後の積極的な利用を推進し、腰痛・肩こりの予防とリフレッシュを促進する。

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	情報共有の強化
現状と課題	複雑な勤務体制により会議に参加できない職員や、数日ぶりの出勤で状況が把握しきれず、「情報の孤立（アウェー感）」を感じる職員が存在している。ラインワークスでの情報共有は行っているが、会議録ができるのが遅くなるため情報にタイムラグがあることが課題となっている。
取組の方向性	会議の議事録作成にボイスメモと文字起こしアプリを活用し、会議の翌日には出せる体制を整える。朝礼・昼礼では2～3日同じ内容を申し送ることでアウェー感を無くす。

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	介護状態に応じた環境づくり
現状と課題	入居者の半数以上が85歳以上であり、転倒や体調の急変等が予測される。正規・臨時職員はゆふの業務に入ることが多いが、パート職員はゆふでの生活環境について分からないことの方が多い。
取組の方向性	職員個別に分けた担当制へと変更させ、よりその方に合った生活環境を提供できるようにする。パート職員にもゆふの利用者を受け持ってもらい、担当であるという意識を持ち利用者を見ていく。ケアマネや福祉用具業者と相談をし、生活環境を整える。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	山家学園児童との交流の継続
現状と課題	日曜日、二ヵ月に一回程度で山家学園の児童さんと交流を行っている。子どもと触れ合うことで高齢者は刺激となり、交流中は笑顔が絶えない。「楽しかったわ!」という声も聞かれている。
取組の方向性	山家学園の児童の状況にもよるが、出来る限り交流を続けていく。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	経費の抑制
現状と課題	職員が経費に対する関心や意識が低いため、抑制へと繋がっていない。
取組の方向性	抑制可能な経費に対し、月ごとに開示し、可視化する。会議等で共有し意識改革へと繋げる。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	ホームの満床を維持する
現状と課題	入居状況には波がある。満床状態で予約が入る時もあるが、予約もなく空室になっている時もある。
取組の方向性	空室になりそうな状況のうちに居宅介護支援事業所へのアプローチを開始し、なるべく早めに埋まるよう働きかける。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	業務マニュアルの整備
現状と課題	支援の伝達はラインワークスを使って行っている。支援に対する業務マニュアルはできてきているが、清掃業務のマニュアルがないため、清掃職員がどこまでやっているのか分からない。といった声が出ている。
取組の方向性	清掃業務でのマニュアルを作成する。一日の流れや掃除・洗濯などの連携を文章化し、誰でも同じ質の仕事ができるようにする。

3 目標利用率

事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/月
有料老人ホーム	22名	86%	91%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%	93.9%

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名 称	執行見込額
居室ルームエアコン 20 台	2, 0 1 3
食堂用エアコン	3 3 0

5 修繕計画(大規模修繕を除く)

(単位：千円)

名 称	執行見込額
配管修繕	1 0 0
ウォシュレット	5 0

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名 称	執行見込額
なし	

7 介護度

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
1 名	1 名	7 名	9 名	2 名	1 名	0 名	21 名

令和 8 年度 年間行事計画（案）

庄内厚生館 有料老人ホームゆふ

	行事関係	あなみ保育園・山家との交流、合同行事	研修・その他
4 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜日）		接遇に関する研修・認知症及び 認知症ケアに関する研修（園内 研修） 防犯対策についての研修（園内 研修）
5 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜）	山家児童との交流	BCP（災害）に関する研修（園 内研修） 避難訓練
6 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜）		BCP（災害）に関するシュミレ ーション訓練（園内）
7 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜）	山家児童との交流	緊急時の対応に関する研修（園 内）
8 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜）		身体拘束等排除のための取り組 みについての研修
9 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜）	山家児童との交流	プライバシーの保護の取り組み に関する研修
10 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜）		BCP（感染）に関する研修（園 内研修） 避難訓練
11 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜）	山家児童との交流	BCP（感染）に関するシュミレ ーション訓練（園内研修）
12 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜） ゆふ忘年会		高齢者虐待防止に関する研修
1 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜）	山家児童との交流	倫理および法令順守に関する研 修
2 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜）		リスクマネジメントに関する研 修
3 月	クリーングリーン作戦（第 1 水曜）	山家児童との交流（月 1 回）	事故発生または再発防止に関す る研修（園内）